

# 認定看護管理者教育課程カリキュラム

認定看護管理者とは「日本看護協会認定看護管理者認定審査に合格し、管理者として優れた資質を持ち、創造的に組織を発展させることができる能力を有すると認められた者」をいいます。その役割は「多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することにより保健医療福祉に貢献する」ことです。

認定看護管理者教育は、日本看護協会に認定された教育機関において、ファーストレベル・セカンドレベル・サードレベル、それぞれの「カリキュラム基準」に沿って行われています。

## 1 実践教育センターにおける「認定看護管理者教育課程」の特徴

(1) 実践教育センターは、「看護管理者に備えてほしい力」を以下のように考え、ファーストレベル・セカンドレベル・サードレベルを段階的に教育できるようにしています。

＜保健医療福祉サービスの創造に向けビジョンを実現できる看護管理者に備えてほしい力＞

- (1) 看護師でなければできないこと、看護師だけでは最良に行えないことを見極め概念化し発信できる力
- (2) 人格の尊厳や人権を尊重する倫理観を行動と一致させられる力

(2) 各レベルの「看護管理者に備えてほしい力」を以下のように考え、学科進度や講師選定に工夫を凝らし、カリキュラムに特徴を持たせています。

レベル	備えてほしい基盤となる力	カリキュラムの特徴
ファーストレベル	倫理観を土台としく大切にしたい看護の信念>に戻る力	・看護実践の場で生じている問題を持ち寄る
	自分にビジョンを描き表現できる力	・学生間で共有して課題を見つける
	対話により小集団を動かせる力	・現実的な対応策を立案し発表する
セカンドレベル	現場を正しくみる力	部署責任者として
	ビジョンを概念化し発信できる力	・評価指標を用いる
	連携・協働、推進力により中集団を動かせる力	・対象や対象を取り巻く関連施設から情報を得る ・自部署の分析を行う ・管理実践計画の立案・実践ができる
サードレベル	ぶれない看護管理観と組織管理観により組織的意思決定できる力	トップマネージャーとして
	未来を見据えたビジョンを表明し大集団を動かせる力	・自らのビジョンを実現することを目的に、政策提言・ビジョンの策定・改善計画立案のいずれかを主体的に選択し成果を報告する

(3) 本大学の理念である「ヒューマンサービス論」はセンター独自の必修科目とし、各レベルに「ヒューマンサービスの理念に基づく」備えたい力を単元に設定しています。

(4) センター独自科目に「現象の概念化」を設け、研究的思考と問題解決力を段階的に向上できるよう、ファーストレベルは必修科目、セカンド・サードレベルは選択科目に設定しています。

(5) 講義だけでなく、グループワークや発表により学びを深めることができるプログラムです。

(6) 演習では、一人ひとりの学びが深まるよう、少人数グループによる丁寧な指導を行います。

(7) ファースト・セカンドレベルでは、他教育課程との共同講義科目を設定しており、多職種で学

べる環境を提供しています。

## 2 授業期間、日程など

- (1) 実践教育センターは1時間=45分、日本看護協会は1時間=60分です。対応する科目時間は、「認定看護管理者カリキュラム基準」と同等の時間です。
- (2) 週末の開講のため、学んだことを即実践に活かすことができる時間割です。
- (3) ファーストレベルは、4月の入学式後、10月からの開講になります。開講期間内に1ヶ月程度、所属における問題を整理し課題を明確にするための期間を設けています。前半の学習を踏まえ、現場で実践しながら課題を明確にし、学習を統合できるようにしていきます。
- (4) セカンドレベルは、4月の入学式後、5月からの開講になります。開講期間を3月までとしていますが、講義は10月で終了し、開講期間内に実践報告まで行うプログラムとしています。
- (5) サードレベルは、4月の入学式後、6月からの開講になります。ゆとりをもって学習に取り組めるよう開講期間を3月までとしていますが、講義は11月で終了し、開講期間内に実践報告まで行うプログラムとしています。

### <認定看護管理者教育課程の修了>

本課程の修了判定は、次のように行います。

#### 1 科目修了判定

認定看護管理者教育課程の修了に当たっては、科目修了判定を実施する。

#### 2 科目修了判定の受審資格

科目修了判定を受けることができる者は、科目修了判定の対象となる認定看護管理者カリキュラム基準に定める全教科目について、各科目履修すべき時間数の4/5以上の出席が必要である。

#### 3 科目修了判定の判定方法および評価基準

- (1) 科目修了判定は、各科目の試験により行う。
- (2) 判定基準は、科目ごと100点を満点とし、得点をA=80点以上、B=79~70点、C=69~60点、D=59点以下の4段階で評価し、C以上を合格とする。

#### 4 修了判定

- (1) 科目修了判定（受審者）については、「認定看護管理者教育運営委員会」の審議を経て、認定看護管理者ファーストレベル教育、セカンドレベル教育またはサードレベル教育の修了を決定する。
- (2) 修了を認められた者に修了証書を授与する。

# セカンドレベル

## ＜カリキュラム＞

### 【教育目的】

看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。

### 【到達目標】

- 1 組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。
- 2 保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。

### 【教育内容】

（多少変更することがあります。）

分野	科目名 (必修・選択の別)	時間	内容	ねらい
基礎	ヒューマンサービス論Ⅱ (必修) ※	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンサービスの理念</li> <li>・多職種とのコーチング</li> <li>・看護管理者の知</li> <li>・認定看護師との連携・協働</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンサービスの理念に基づいたサービスのあり方を考察し自己の看護管理実践に活かせる。</li> <li>・リソースナースの活用や多職種の連携協働を推進する力を高める。</li> </ul>
専門	ヘルスケアシステム論Ⅱ (必修)	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における社会保障 人口構造、疾病構造の変化 /社会保障費の(財源)講造 と推移</li> <li>・保健医療福祉サービスの提供 内容の実際 病院、看護小規模多機能型 宅介護、訪問看護ステーション等</li> <li>・多職種によるチームケア提供 の実際と課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスケアシステムの現状と課題を踏まえ、自部署の看護管理に与える影響を考えられる。</li> <li>・互いの専門性を活かして多職種によるチームケアを提供することの必要性が理解できる。</li> </ul>
	組織管理論Ⅱ (必修)	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織分析</li> <li>・組織の変革</li> <li>・組織の意思決定</li> <li>・看護管理における倫理的課題</li> <li>・看護管理における倫理的 意思決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織分析や変革理論を学び、自部署の運営に活用できる。</li> <li>・組織の意思決定に参画する力を高める。</li> <li>・看護管理における倫理的な課題や分析手法を学び、自部署における倫理的 意思決定に活かせる。</li> </ul>
	人材管理Ⅱ (必修)	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員配置</li> <li>・勤務計画</li> <li>・ワークライフバランスの推進</li> <li>・ストレスマネジメント</li> <li>・タイムマネジメント</li> <li>・労働災害とその対策</li> <li>・労務管理に関する今日的課題</li> <li>・ハラスメント予防策と対応</li> <li>・人的資源の活用</li> <li>・リーダーシップの実際</li> <li>・コンフリクトマネジメント</li> <li>・看護補助者の育成</li> <li>・キャリア開発支援</li> <li>・人材育成計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事考課や労務管理の知識に基づき、自部署の現状や課題、対応について考えることができる。</li> <li>・多職種チームのマネジメントに必要な知識や技術を学ぶ。</li> <li>・自部署の人的資源を有効活用できる知識や技術を学び、人材育成計画の立案ができる。</li> </ul>

※センターが独自に設定している科目

分野	科目名 (必修・選択の別)	時間	内容	ねらい
専 門	資源管理Ⅱ (必修)	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医業収支</li> <li>・ 経営指標の活用</li> <li>・ 費用対効果</li> <li>・ 適切な療養環境の整備</li> <li>・ 看護の評価</li> <li>・ 改善のための情報活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報を含めた経営資源の活用と管理の実際を学び、経済的な視点を持ち自部署の看護の評価や改善に活用できる。</li> </ul>
	質管理Ⅱ (必修)	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クオリティマネジメント 医療・看護におけるクオリティマネジメント</li> <li>・ 安全管理の実際</li> <li>・ 安全管理教育</li> <li>・ 法令遵守</li> <li>・ 災害対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健・医療・福祉サービスを提供するために必要な質管理が理解できる。</li> <li>・ 質評価の視点を理解し、看護サービスの質を保障するための戦略に活かすことができる。</li> <li>・ 安全に関する最新の動向を学び自部署における安全管理が実践できる。</li> </ul>
	統合演習Ⅱ (必修)	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自部署の組織分析に基づいた実践可能な改善計画を立案する。</li> <li>・ 地域連携を理解するための他施設実習を行う。 (実習施設は、受講者自身の所属種別以外の施設とする)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織理念を踏まえ担当部署のビジョンを描き、達成に向けた看護管理実践を展開できる。</li> <li>・ 地域連携の視点を踏まえたヘルスケアニーズに基づき自部署の課題解決に活かせる。</li> <li>・ 自部署の管理実践計画書を立案する過程を通し、看護管理者としての資質や要件を概念化できる。</li> </ul>
	現象の概念化Ⅱ (選択)※	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究論文のクリティーク</li> <li>・ 論文の書き方</li> <li>・ 文献検索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究的思考を活用し、客観的事実に基づき現象を概念化できる力を高める。</li> <li>・ 研究実践の知識を活かし、研究活動の支援ができる。</li> </ul>
設定時間 合計 284 (必修：264 / 選択：20 )				